

From the Dean's Office

# よみがえる

東京オリンピックが閉幕し、終戦の日を迎えた。新型コロナウイルスの感染が急激に広がっている最中である。日本は太平洋戦争による災禍からよみがえり、めざましい経済発展を遂げ先進国の一翼を担っていると多くの国民は考えてきた。しかしながら、さまざまな側面でそれが後退したか、そもそもそれは幻影であったのではないか。

オリンピックそのものが内包する矛盾は脇に置くとしても、日本でオリンピックが開催されたことによって、この国の本質が日中戦争から太平洋戦争に突き進んでいた頃と大きくは変わっていないことに気づかされた。

成長を前提とする資本主義が行き詰ると、成長の伸びしろを惨事や祝祭に求めることがある。原子力発電所の事故によって打撃を受けた福島は、惨事資本主義的な力によって少なからず翻弄され、さらに復興五輪のかけ声のもと祝祭資本主義の材料として利用された。農学を実学と定義するのであれば、健全な一次産業を復興発展させるだけでなく、それぞれの地域の特性に応じて、コミュニティや伝統、文化、景観などを最大限尊重することが農学には求められている。

人口減少によって衰退している地域は数多い。これらの地域では、災害と同様の社会破壊がじわじわと起きている。地域と地球をよみがえらせるには、いたずらに経済的成長を求めることから決別する必要がある。私たちが目指すべき豊かさは別の地平にある。



東京大学大学院農学生命科学研究科長・農学部長  
堤伸浩

原発事故から10年が経ちました。東京大学大学院農学生命科学研究科では事故当初から各分野の研究者が福島の農業問題に関わってきました。こうした取り組みは復興知として集積され、現場の課題を解決するための古くて新しい農学としてよみがえろうとしています。



農学国際専攻  
国際情報農学研究室  
みぞぐち まさる  
溝口勝教授

# 福島から始まる 復興農学

Resilience Agronomy starting from Fukushima



新しい農学に向けて始動した農学部の学生と教員による初の現地訪問

2012年10月に東大農学部の学生と教員が福島県飯館村を初めて訪問し、農家から放射性セシウムによって汚染された農地の説明を聞きました。いまはここで純米酒「不死鳥の如く」の酒米がICTを活用した方法で栽培されています。

<https://youtu.be/e-pzCQgvL5A> 東大TV：飯館村に通いつづけて8年半・大学と現場をつなぐ農学教育



日本の農業技術は江戸から明治にかけて篤農家によって作られてきました。一方、日本の近代的農学は1884年の日本獣医学会と1887年の農学会から始まりました。しかし駒場農学校を卒業した横井時敬先生は西洋科学を学んだ当時の農学者が現場を見ずに事にあたろうとしているのを見て講演会の席で「農学栄えて農業滅ぶ」と揶揄した\*といわれています。

2011年3月、東日本大震災による津波によって東北地方沿岸部が壊滅的な被害を受け、そして原発事故によって福島県浜通り地域は放射能で汚染されました。1986年のチェルノブイリ事故では石棺処理で幕引きされましたが、福島では地域をよみがえらせる人類初のチャレンジが続いています。研究者が福島に足を運

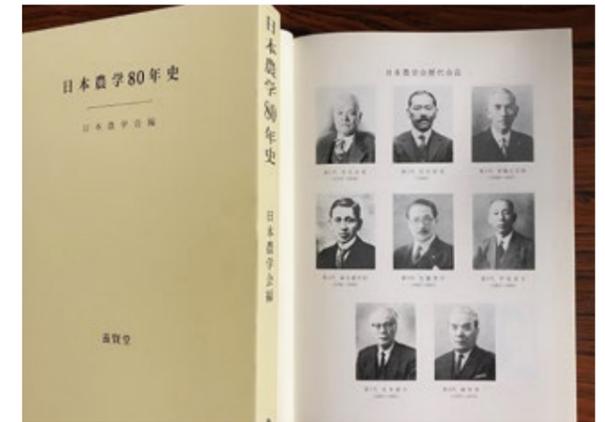
び、専門知を駆使した試みは「復興知」として集積されつつあります。そして復興知はこうした復興知を世界に向けて発信する試みも含め、創造的復興の中核となる国際教育研究拠点を作ろうとしています。

農村は食料生産と生活環境の場で、農学はそこに住む人々と創る総合的な学問です。科学論文では過去の文献を検索して自分の研究分野の新規性を主張しますが、

福島には原発事故に由来する新しい課題が至るところに転がっています。「農業のことは農民に聞け」も横井先生の言葉です。避難指示が解除された地域には逆境に負けない現代の篤農家が戻っています。教員と学生が現場に行き、篤農家と対話すれば課題が見え、江戸時代から続く伝統的な堆肥づくりに最先端

のテクノロジーを組み合わせることで除染で失われた地力を回復するなどの研究テーマが生まれます。農学は総合的な科学技術の集大成です。細分化されていた農学が復興という目標を掲げて福島から不死鳥の如くよみがえろうとしています。

\*田付貞洋・生井兵治(2018). 農学とは何か, 朝倉書店, p.3



1929年に始まった日本農学会の歴代会長

1929年までに設立された農学関連の16学会を束ねて誕生した日本農学会は今では研究分野の細分化により50以上の学会で構成され、そこに今年復興農学会も加わりました。日本農学会編(2009). 日本農学会80年史, 養賢堂

## 教えて! Q&A

### ■ 復興知

2011年の原発事故以降に全国の大学等が福島の現場に入って得た福島復興に資する「知」。大学等の組織的な教育研究活動を支援し、大学間や研究者間の相互交流とネットワークづくりを推進するために、2018年に文部科学省が「大学等の「復興知」を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業」を立ち上げた際に使われた用語。東京大学ではこの事業に採択された部局の研究者が連携して、2020年4月から駒場の学生を対象に福島復興知学講義を開講しています。

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/hpab201901/1420047\\_009.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab201901/1420047_009.pdf)



(文部科学白書2018 p.73)

### ■ 国際教育研究拠点

福島の創造的復興に不可欠な研究および人材育成を行い、その経験や成果等を世界に発信・共有するとともに、そこから得られる知をもとに日本の産業競争力の強化とイノベーションの創出を目指すための教育と研究の拠点。復興知が2021年度内に基本構想を策定する予定。5つの重点分野の1つとして農林水産分野があり、東大農学生命科学研究科の研究者の参画も期待されています。

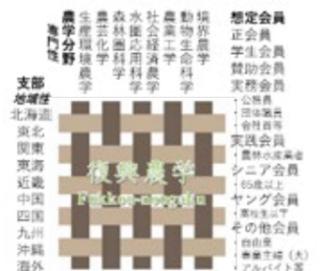
<https://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-21/20210202160535.html>



### ■ 復興農学会

国内外における自然災害・原子力災害等からの復旧・復興から得た農学・農林水産分野における知見・技術を、広く国内外に発信していく学術的な非営利組織。2020年6月に設立されました。専門性という縦糸で発展してきた農学分野を、地域性という横糸でつなぎ、現場の声を耳を傾けながら専門家が一緒になって地域と農業の復興を果たし、日本および世界の農業・食料生産の持続的発展へと展開することを目指しています。

<http://fukkou-nougaku.com/>



詳しくはこちら、<http://www.iai.ga.a.u-tokyo.ac.jp/mizo/edrp/fukushima/201017.html>

